



# 2009日本自動車殿堂 歴史車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し  
日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected,  
registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

## ホンダ スーパーカブ

Honda Super Cub

ホンダ「スーパーカブ」



1958年(昭和33年)スーパーカブ(SUPER CUB C100 1958)

### ホンダ スーパーカブの沿革

1952年	カブF型発売
1958年	スーパーカブC100発売
1961年	生産累計台数100万台突破
1966年	スーパーカブC50(空冷OHCエンジン搭載)発売
1966年	生産累計台数500万台突破
1971年	新設計フレーム採用のスーパーカブデラックス発売
1976年	生産累計台数1000万台突破
1981年	超低燃費のホンダエコノパワーエンジン搭載
1991年	生産累計台数2000万台突破
2000年	生産累計台数3000万台突破
2003年	生産累計台数4000万台突破
2005年	生産累計台数5000万台突破
2007年	電子制御燃料噴射装置「PGM-FI」を採用
2008年	生産累計台数6000万台突破
2009年	環境対策を施したスーパーカブ110発売

### スーパーカブ(C100)主要諸元

全長	1,780mm	エンジン	空冷4サイクル
全幅	575mm	形式	OHV単気筒
全高	945mm	ボア×ストローク	40mm×39mm
ホイールベース	1,180mm	総排気量	49cc
最低地上高	140mm	圧縮比	8.5:1
車両重量	65kg(乾燥)	最高出力	4.5ps/9,500rpm
乗車定員	1名	最大トルク	0.34kg-m/8,000rpm
最大積載量	—	燃料消費率	90km/L(30km/h時)
最高速度	70km/h	変速機	前進3段
最小回転半径	1,700mm	始動	キック
登坂能力	1/4	燃料タンク容量	3リッター
タイヤサイズ	(前)2.25-17	クラッチ形式	湿式多板自動遠心式
	(後)2.25-17	ミッション形式	前進3段常時噛合式
価格	55,000円		

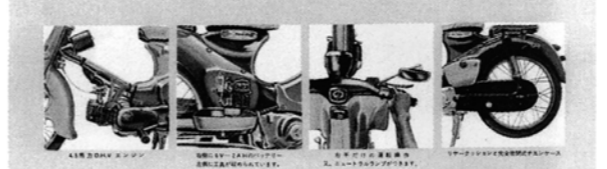
※諸元データは、スーパーカブC100(1958年)のもので、「スーパーカブ号 サービスマニュアル」(1962年刊)及び当時のカタログより抜粋

### ■世界のロングセラーに成長したスーパーカブ

日本が高度経済成長期に入ろうとしていた昭和30年頃に本田技研工業の本田宗一郎社長と藤沢武夫専務は、欧州への視察旅行を敢行する。そして帰国後本田宗一郎は自ら陣頭指揮をとり、今までにないまったく新しい、小排気量な乗り物の開発に着手



発売当初から「誰でも乗れます」と宣伝し、女性のユーザーも意識していたスーパーカブ



乗り降りのしやすいデザイン、燃費が良い高出力の4サイクルエンジンと自動遠心クラッチなど、優れた設計思想は、日本はもとより多くの国々で認められる結果となった



累計生産台数 6000 万台を超える、歴代のスーパーカブのモデル群。半世紀の間、基本的なレイアウトは大きく変わっていない

したのである。当時の小排気量車は2サイクルエンジンが世界の主流であり、日本でも2サイクルの補助エンジンを取り付けた自転車や、ラビットなどのスクーターの全盛時代であった。しかし本田は「実用的で安価で、維持費もかからず、軽くて操縦性に優れた乗り物をつくろう」という開発思想を掲げ、耐久性の高い4サイクルエンジンにこだわり、OHV49ccで4.5馬力という高出力エンジンを開発した。加えて蕎麦屋などの配達に威力を発揮する、まったく新しい自動遠心クラッチを同時に開発。さらに女性などにも乗り降りのしやすい機能的なステップスルーのデザインを採用して誕生したのが、1958年(昭和33年)8月に発売されたスーパーカブであった。

発表後は大きな反響を呼び翌年には16万台以上販売するという、驚異的な記録を残している。好調な国内販売実績によって海外にも本格的な輸出を開始、仕向地に合わせた多くの派生車種を生んだ。以後も信頼性や耐久性の高さによって、生活の道具として高い人気を得て、商用車の地位を確立。8年後の1966年(昭和41年)には時代の変化に対応してボディを拡大し、エンジンをOHCに変更、1983年(昭和58年)にはリッターあたり180kmという省燃費を達成。2007年には、排出ガス浄化装置などの採用によって、低燃費と環境性能をさらに高めた。こうして誕生から半世紀を経た「カブシリーズ」は、基本レイアウトを変えることなく、2008年には生産台数6000万台を記録。現在は世界15カ国で生産され、延べ160カ国以上の国々で愛用される世界車に成長した。スーパーカブは、ホンダの社是である『わが社は世界的視野に立ち、顧客の要請に応じて、性能の優れた、廉価な製品を生産する』を文字通り実現した二輪車であるといえるのである。(小林謙一)